

改めて「flair」を 後進性排除(3)

30数年前のことです。日本で世界のラグビーの最先端に焦点を合わせてラグビー研究が進められていたとき、flairについて論議が盛んでした。イングランドがラグビー再建を賭けて導きだした指導の原理から学び後進性を排除することが今日の課題です。

今日のラグビーは power の時代であると言われるように、power の優劣が勝敗を大きく左右するという試合の現実が横行している今こそ flair について考えて、全てのチームが理念の根幹に flair を据えることが重要です。

power と skill 生かす flair が競技に占める働きを再認識し、その延長線に本能 instinctive nature というに値するような自由奔放な動きに目がむけられる時期がありました。flair の根底にあるラグビーの発祥にみられる人間本来の自由と挑戦の精神は、ラグビーの根幹なのです。プレーが固定化し、激しさだけで、プレーも単純で、感動までに至らないラグビーは、生涯スポーツとして愛され多くの人に興味と関心を持ち続けてもらえないのは自然な成り行きです。flair から生まれた意外性や卓越性が人々に夢を与えるのです。flair のセンス向上を図ることは、プレーヤーだけでなく、観衆にとってもラグビーを楽しむ上での重要な一節です。

RFU の coaching scheme 1974-75 の中に質問形式として次のようにとりあげています。1974年といえば、現代ラグビーが胎動から躍動へ始動した時代です。ラグビーの母国イングランドが、世界のトップの地を確保するために最重要項目としたのです。後進性を排し再生を期す日本ラグビーの絶好の手本であると思います。

Q Will coaching stifle flair?

Bad coaching certainly will, but that is another story! Look at it this way. If a player in your side had a magnificent side-step then what you have to do so or genies your players that the player with the side-step has the best possible opportunity of using it. It makes sense really. It is no good him side stepping all over the places wasting his energy. One side step at the right time and then linking up for a try is much more.

コーチングにおいては、(悪いコーチングは別として) flair を消滅させてしまうものであってはならないだけでなく、発想を生かした一つのよいプレーを有機化する即ち働を組織的に推奨しなければならぬ。そうすることはプレーヤーのセンスを養うことにもなりプレーヤーを育てチームを強くなるために大切なことだということです。

flair は、鋭い眼識、第六感、才という意味で、selective instinct for what is good (Oxford.) ということです。flair は実戦的には、判断力であり、発想力「ひらめき」ということになります。力いっぱい flair を働かせて動きまわることがラグビーの楽しさの素地であるということが出来ます。

チームの中で組織論が重視され、個人は組織の統一に対し忠実であることが強調されすぎていく嫌いがあります。咄嗟の判断をしなければならぬ場合、戸惑って望ましいプレーができない場面がみられます。人間が自分の判断も含めて持てる力の十分発揮し達成感が大きいほど面白さが大きく、感動が心に残るものです。30人と多人数が入り乱れて戦う競技で、戦い方も自由で不定型で変化に富んでいるから面白いのです。ラグビーの発祥は自由を象徴するものであり、ボールの形や大きさの変化こそあっても、ラグビーの卵型ボールの転び方も、不定型・変化の原点を示すものです。個人競技とちがって、多くのプレーヤーとその組み合わせによって、変化が増幅され面白さをまましていくのです。

指導者にとっても、プレーヤーにとっても、flair についての認識を高めることが、ラグビーを楽しむために必須要件なのです。